

びょうどう 平等とは

にほん きょういく お ひと すく じゅうよう
日本の教育では、落ちこぼれの人をどのように救うかが重要なテーマ
ひと たと しょうがっこう べんきょう こ
の一つになっている。例えば、小学校でも勉強のできない子がいれば、
どのようにして皆で助け合っ^{みな たす あ}てその子をできるようにするかが、教育の
もくてき ひと うんどうかい こじんべつ しょうぶ べつ
目的の一つになる。また、運動会でも個人別の勝負ではなく、クラス別に
スコアを競い、クラス別の勝負になる。つまり、個人が持つ固有の能力を
の つね ぜんたい かんが のうりょく そだ じゅうよう
伸ばすことと、常に全体のことを考える能力を育てることが重要な
である。

しょうがっこう やく お お
ところが、ドイツでは小学校で約10%が落ちこぼれ、ふるい落とされる。
よねんせい しょうがっこう そつぎょう とき せいせき しょうらい き そつぎょうご
四年制の小学校を卒業する時の成績で将来が決まってしまう。卒業後
のうりょく ひと きょういく う ひと しゃかい
は、能力のある人はリーダーになる教育を受け、そうでない人は社会の
したづ しごと いっしょうつづ きょういく う
下積みのような仕事を一生続けるための教育を受ける。

のうりょく ひと のうりょく い たか しゃかいてきちい たか しょとく
能力のある人はその能力を生かし、高い社会的地位につき、高い所得
え のうりょく ひと したづ しごと ひく しょとく
を得ることができ、能力のない人は、下積みの仕事をし、低い所得でがま
まこと びょうどう びょうどうかん こんてい
んするのが、真の平等であるという平等観がその根底にあるようだ。

にほん ひと わ しゅうだん つく ろうじん そうねん せいねん
日本ではすべての人が和をもって集団を作り、老人、壮年、青年が、
やくわり にな のうりょく ひと か ひと おな
それぞれの役割を担い、能力のある人も、それに欠ける人も、同じように
そしき さんか しゅうだん ちから はつき のぞ かんが
組織に参加し、集団の力を発揮することが望ましいと考えられている。

にほん びょうどうかん おうべいじん み あくびょうどう こせい みと おく
日本の平等観を欧米人を見ると、悪平等であり、個性を認めない、遅

かんが かた い にほんじん おうべい びょうどうかん み
れた考え方だと言うだろうし、日本人が欧米の平等観を見ると、それは

びょうどう さべつ おも
平等ではなく差別だと思ふのである。